

“みんなでつくる”義農公園再整備ニュースレター vol.1

1. 第1回ワークショップを開催しました！ テーマ「過去：地域の記憶をたどる」

「過去から未来をつくる」という町の全体コンセプト・ビジョンを共有し、義農公園が地域の中で果たしてきた役割・思い出・エピソードを出し合いました。その後、新しい義農公園でやってみたいことを話し合いました。ワークショップならではの世代や立場を超えて話し合うことができるという特徴が発揮されました。

2. 開催概要

日 時：令和7年11月13日（木）18:30～20:30

会 場：松前町役場2階会議室

参加者：20名（子育て世代／大学生／地元区長／シニア／外国人住民 ほか）

アドバイザー：24名（町職員・地元関係団体・伊予高生（探Q活動）・設計者ほか）

3. ワーク①義農公園・その周辺の思い出や印象（まとめ）

① 公園と神社の風景・日常の時間 Landscape & Everyday Life

四季のうつろいと、暮らしの中に溶け込んでいた景色

桜／藤棚／大きな松の木／公園・神社の散歩／義農橋から釣り

② 遊び・冒険・自由時間 Play & Adventure

子どもの挑戦や成長を支えた“遊びの宝箱”

タコのすべり台／プール（命札・はんざり競漕）／野球／ブランコ／シーソー

③ 行事・にぎわい・地域のつながり Festivals & Community

地域のリズムを生み、人が集まる“にぎわいの中心”

義農祭り（太鼓・屋台）／夏祭り（盆踊り・義農音頭・笹飾り・のど自慢）／お花見／保育所の運動会

④ 公園からまちへ広がる回遊の記憶 Townscape & Soft Mobility

義農公園は単体の施設ではなく、まちとつながる“入口”だった

駄菓子屋／老人憩いの家／大坪座（映画館）／松前駅／東レ／松前病院／保育所～プールまでの「秘密の通路」

4. ワーク①新しい義農公園でやってみたいこと（まとめ）

① 遊び（遊具）・チャレンジ Play & Challenge

身体や感性を使った“冒険”と、遊具を含む自由な遊び

- ・タコのすべり台／ブランコ
- ・アスレチック／鉄棒
- ・ボール遊び
- ・自転車の練習
- ・スケートボード
- ・鬼ごっこ／けいどろ
- ・水遊び
- ・木登り／シャボン玉／釣り
- ・キャンプ／テント／花火
- ・SNS発信（映え・動画）

→ 子ども～大人まで「自分でやってみる」が叶う公園の原点

② 健康・スポーツ Wellness & Sports

運動・スポーツを通して健康づくりに取り組む場

- ・散歩
- ・ジョギング／ランニング
- ・サッカー／バスケット／ラグビー
- ・テニス／バドミントン
- ・グランドゴルフ
- ・筋トレ／ヨガ

→ 施設・設備を活かして多世代の“健康・運動”を支える公園機能

③ くつろぎ・居場所 Relax & Place

“まちなかりビング”としてのゆるやかな時間

- ・木陰で過ごす／昼寝
- ・ベンチに座る／おしゃべり／デート
- ・ピクニック
- ・ペットと遊ぶ
- ・夜空を見る
- ・自習／読書
- ・写真／歌／趣味のひとり時間
- ・分煙の工夫

→ 生活の延長として、誰でもふらっと立ち寄れる居場所

④ 交流・にぎわい Community & Activity

人が集まり、賑わいが生まれる活動

- ・キッチンカー
- ・マルシェ／フリマ
- ・特産品販売
- ・カフェ
- ・ビアガーデン
- ・ライブ／フェス
- ・盆踊り／春の花見
- ・イルミネーション
- ・はんざり
- ・新義農グッズ開発
- ・商店街／企業連携

→ 公園が「地域の広場＝共有資源」として活用される領域

⑤ 歴史・文化・自然 History, Culture & Nature

義農公園の最も重要な価値を未来につなぐ領域

- ・公園の記憶（タコのすべり台、プール等）
- ・青空教室
- ・壁面アート
- ・花壇／花の名を知る
- ・芝生でごろごろ
- ・野菜づくり
- ・シンボルツリー
- ・クローバー冠づくり

→ 「義農のまちの公園」としてのアイデンティティが最も表れるカテゴリ

5. 事務局コメント

皆さんのお話から、義農公園が「遊び場」以上に、地域のにぎわいや家族の思い出を生んできた場所であることが改めて分かりました。タコのすべり台や広場のボール遊び、夏のプールなどの記憶、そして青春の甘酸っぱいエピソードまで語られ、公園が人の成長の舞台でもあったことが伝わりました。

公園は“決められた機能”にとどまらず、誰もが自由に過ごせる場であり、その自由を守るために柔軟な管理の考え方が必要であることも見えてきました。いただいた声は今後の計画にいかします。次回は現時点の計画案を共有し、残りのワークショップの中で未来につながるアイデアを一緒に深めていきたいと思います。

